

A woman with dark hair, wearing a blue floral kimono, is holding a large bouquet of hydrangeas. She is standing in a lush garden with many green plants and trees. The background shows a stone wall and more foliage. The overall scene is bright and natural.

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Autumn 2020

Vol. 48

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOUJYUEN

TOPICS

HOUJYUEN'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOUJYUEN×FAMILY

トピックス



今回の設備更新は公益財団法人JKA競輪補助事業による助成金をもとに行いました。

特殊浴槽を更新しました！

9月8日、公益財団法人JKA様の補助事業により、1階浴室に最新の特浴設備一式を導入しました。これにより、一般浴槽に入ることが困難な利用者様にも安心して快適に入浴を楽しんでいただくことができます。

豊寿園でも開設当初から各階に設置していますが、より使用頻度の高い1階の機器を更新しました。



北九州市の施設ラウンドを受けました！

9月30日に北九州市職員の方に来園いただき、豊寿園の新型コロナウイルスを含めた感染症対応についてご助言をいただきました。施設内の各室での対応方法をラウンドしながらさらに改善すべき箇所についてアドバイスをいただきました。今後も私達職員が感染症を持ち込まないことを大前提に感染症予防策に取り組んでまいります。



消防訓練を行いました！

8月に今年度第一回目の消防訓練を行いました。今回は屋外のゴミ置き場からの出火を想定し、初期対応と避難誘導の手順等を確認しました。火災の原因のひとつに不審火があります。これからの乾燥する季節に、そういったことが原因の火災がいつ発生しても対応できるよう訓練を重ねています。





9月 敬老会を開催し記念の御年をお迎えになられた方々へお祝い状をお贈りしました。コロナ禍でご来賓をお招きしての式典は中止しご家族を順番にご案内する形に変更しての開催でしたが、ご長寿をご家族、職員とで分かち合うことができた1日でした。



8月 夏の思い出にスイカ割りで盛り上がりました。



7月 七夕の飾りつけを行いました。例年は新門司保育所園児さんと一緒に行っていますが、今年は利用者様の実施しました。

デイサービス

七夕



7月 願いをこめて短冊の飾り付けをしました。

園芸活動



8月 スイカを収穫。小さいけれど美味しそう!

厨房イベント



8月 久しぶりに着た浴衣と美味しいお好み焼きで夏の思い出を作りました。



おやつ作り



9月 おはぎをつくりました。

敬老会



9月 百寿の表彰を行いました。



地域ぶらり情報



ふわっふわ、ぷるん♡

今回は、前号に掲載した『N I J I』よりのご紹介です。門司区の中央市場に入り口を（ハローデイ側）入ってすぐ左手に、6月にOpenした『Kuroshiba Chiffon』があります。国産食材にこだわり、添加物を極力使わず、シフォンケーキその物の味が楽しめるように作られています。定番の味はなく、店頭には並ぶ種類は日によって違います。この日は栗、ピスタチオ、コーヒー、ティラミス、よもぎ、イチジクを使ったものが並んでいました。10月はハロウィーンバージョンも販売しています。「お茶に合うシフォンケーキ！」をというアイデアから、ひじきと梅干しのお惣菜シフォンケーキなんていうものもあるそうです。『これからも皆さんに「え!!!」と驚かれる組み合わせを考えていきたい!』と店長さん。どんなシフォンケーキに会えるか楽しみです。ふわっふわ、ぷるんとした食感の、他とはひと味違った『Kuroshiba Chiffon』のシフォンケーキを味わってみてはいかがでしょうか？

シフォンケーキのお店

KuroshibaChiffon

北九州市門司区老松町1-11
中央市場内
定休日 水・木
OPEN 10:00~16:00
(完売次第閉店)

あとがき

数年おきにやってくる私のアイドルブーム。2ヵ月前から久しぶりの大波がやってきました。彼女たちの名前はBISH。この2ヶ月、仕事以外の時間はその音楽や動画を観る時間に充てて過ごしています。若い人たちがガムシャラに頑張っている姿を見ると時に涙腺が緩んでしまう事もあり、『年をとった・・・』と感じてしまいます。

豊寿園にも、利用者様の生活を支え、涙ではなく笑顔にするためガムシャラに頑張っている職員達が沢山働いています。新型コロナの影響が続く中、様々な手立てを講じながら、そしてこれから到来するインフルエンザシーズンにも備えていきたいと思えます。

そういった豊寿園職員の頑張りを紙面から感じていただけましたら幸いです。これからも豊寿園にご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、得居加代さん（医務課 看護師）です。嘉麻赤十字病院を経て、平成27年から豊寿園で勤務されています。仕事と家庭の両立で忙しい中、屋外での撮影に協力してくれました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、今年6月に豊寿園でお看取りさせていただきました牟田トシ子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族から豊寿園にいただいたお手紙から一部を抜粋してご紹介します。



牟田様の敬老会での記念撮影の様子。ご家族と一緒に。

— 特養に入所となりまして約8年間で入院、6月に他界し、初めて母が短期入所でお世話になりました。2013年1月から特養に入所となりまして約8年間で過ごさせて頂きました。その間、総胆管結石により何度も入院を繰り返して、その度看護師の方に付き添って頂き、また、運転手さんに送り迎えをして頂き本当にありがとうございました。

2012年5月に父が急性心筋梗塞で入院、6月に他界し、初めて母が短期入所でお世話になりました。2013年1月から特養に入所となりまして約8年間で過ごさせて頂きました。その間、総胆管結石により何度も入院を繰り返して、その度看護師の方に付き添って頂き、また、運転手さんに送り迎えをして頂き本当にありがとうございました。

特に2015年12月に肺に大量の水が溜まり門司メディカルセンターに行った時、検査に時間がかかり患者さんが誰もいなくなった待合室で、気丈

な母がとても不安な顔をして「もう誰もおらんようになったよ。帰ろうよ。早く帰ろうよ。」と何度も言っていて「もう少し待つてね。」となだめたことを思い出します。

— 2016年2月に看取りを覚悟で豊寿園に帰りました。

そして肺がんの疑いがあるということが入院することになり、排菌はしてないが結核性胸膜炎と診断され、強い薬の副作用で極度の食欲不振に陥り、2016年2月に看取りを覚悟で豊寿園に帰りました。豊寿園に帰れば食欲が出るのではないかと僅かな希望を持っておりましたが、だめでした。

少し前まではあんなに元気だったのに……。このままではどうしても納得できず再度門司メディカルセンターに入院。結核の薬を中止し抗生剤加療の点滴をして少し改善したところで、大手町リハビリテーション病院への転院を希望しました。担当の先生からは「大手町リハビリテーション病院へ行っても100%豊寿園へは帰れませんよ。」と言われ、とても落胆しました。

— 3か月の入院を経て退院し豊寿園に戻りました。

そして3月、看取りまでということで大町リハビリテーション病院の慢性期病棟へ転院。食欲不振による低栄養状態を改善する事を目標にリハビリをしながら養生。最初はベッドでゼリーを介助でしたが、やがて食堂へ行き御粥等を少しずつ食べられるようになりました。そして、食事も順調になり6月1日に点滴も外れ、毎食10割近く摂取できるまでに回復し、日々元気になつて2016年6月、3か月の入院を経て退院し豊寿園に戻りました。この半年間の闘病は何だったのか？と云うほど食欲と元気もあり豊寿園の方々に驚かせました。思えば、この時が最大のやま場を乗り越えた時でした。



写真 年賀式での一コマ。「ありがとう。」ありがとう。と言われながら素敵な笑顔を見せられていました。

「笑顔で「美味しい、美味しい。」と食事をし、何に対しても「ありがとう。ありがとう。」と言っていました。」

あれから4年、認知症が少しずつ進むも笑顔で「美味しい、美味しい。」と食事をし、何に対しても「ありがとう。ありがとうございます。」と言っていました。しかし、時々ビクビクするような心筋梗塞を起こしたり、逆流性食道炎で吐血して入院したり、その都度豊寿園の方々に大変ご迷惑をおかけいたしました。この間に少しずつ弱っていったのだと思います。そして、この度、天寿を全うしました。

インフルエンザがなかったら、コロナがなかったら、と思えますが何度も入院を繰り返して、現状では病院でも辛い思いをすると思います。そして、豊寿園の方々の絆を考え覚悟の看取りを選択しました。最後の方は理性が効かず皆様を困らせていたことと思いますが、いつも優しく接して頂きありがとうございました。特別のご配慮のおかげで、毎日会うことが出来ました。突然の死でしたが思い残す事はありません。最初に入所したときには気難しい母がうまく打ち解けることができたかどうか心配していましたが、皆様の献身的な介護と寄り添って頂いたことにより、穏やかに幸せな日々を過ごせた事をただただ感謝しております。私ども、兄妹三人心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

トシ子さんとの思い出。お返事にかえて

ショートステイ利用開始の為に、ご自宅へ訪問した日の事を思い出します。ご主人とベッドを並べて過ごされていました。長男さん、長女さん、次女さんと役割を分担して介護をされていることに感心した記憶があります。この役割は最後まで続き、お母様を中心に兄妹が仲良く協力されていて、これはきっと明るいお母様の力かなと思いました。元気でユーモアがあって笑顔の素敵なおトシ子さん。よく職員を笑わせてくださいました。

良く食べ、よく笑うそんなトシさんが、1度目の看取りで戻ってきたときは、絶対食べれるようになると信じていました。今思えば、薬が原因だったのでしょうか。思うように食べてくれないトシさんを、「やっぱり病院に」とご家族が言われた時は、内心ほっとしたのを覚えています。元気になって戻って来られた時、いつものトシさんがそこに居ました。職員一同「よかった!!」と安堵しました。

そんなトシさんも、居眠りがちになり、徐々に食べるのが難しくなっていました。病院に受診した結果、老衰と診断され2度目の看取りを開始。この時のご家族の気持ちはどれだけ揺れているのだろうか心配しました。出来る限りご家族と共に、いつものように過ごしていただこうと思いました。調子が良い時はご自分で食事を口にされることもあり、一喜一憂する日々でした。ご家族は毎日面会に来られ、手や背中を摩られている様子を見ると、たくさんの愛情をお返ししている様でした。「母は宝です」と話されたことがとても印象的でした。

前日まで面会時に息子さんのマスクをひっぱるほど元気でしたが、翌日の朝方に大きなため息のような呼吸をした後、すーっと呼吸が止まりました。ご家族は間に合いませんでした。その事だけが申し訳なくて残念でした。今でもホールのいつもの場所を通る時には、「トシ子で〜す」と声が聞こえそうな気がします。

慣れないまま、試行錯誤しながら、看取りを開始して、たくさんのことをトシさんをはじめご家族に教えていただきました。本当にありがとうございました。

介護課長 奥水 薫



Autumn 2020

Vol. 48

TOPICS

HOUJYOEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOUJYOEN X FAMILY



F R U I T F U L T R E E

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYOEN